

2025年度の金沢星稜大学産学地域連携活動の総括

本学の産学地域連携活動は「金沢星稜大学産学地域連携ポリシー」に基づき、毎年着実に進展するよう、「SDGs 産学地域連携センター」を中心に教職員、学生一体となって取り組んでいます。2025年度においても、下記の3つの要因により質、量ともに充実した活動が展開できました。

1つめは、学生が主体となった地域連携活動の仕組みである、「星稜ジャンプ地域活動プロジェクト(ちいプロ)」やゼミ活動を中心とした地域連携活動を支援する「地域連携による地域貢献活動」の安定した取組みの継続です。

2つめは、石川県中小企業家同友会とのPBL(Project-Based Learning：課題解決型学習)型の連携活動である「課題解決型協創インターンシップ」や石川県鉄工機電協会との「MEX 金沢学生特別企画」への参加といった企業団体との連携活動の進展です。

3つめは、「令和6年能登半島地震」の創造的復興支援活動の進展です。本学では、中期計画に「能登半島の創造的復興とともにあゆみ、地域創生に貢献する全学的な取組みを推進する。」という目標を掲げ、ゼミ活動や教職員・学生の団体を中心に取組みを進めていますが、活動費支援の仕組みとして2024年度に創設した「星稜ボランティア支援事業」を活用した活動が増え、本報告書にも13ゼミ・団体の活動報告が掲載されています。

その結果、本報告書に掲載された産学地域連携の活動数は67件となり、昨年度の60件、一昨年度の50件から着実に増加しています。

この報告書は産学地域連携活動のステークホルダーの皆さまに向けた情報発信や新たな連携活動掘り起こし、すなわち本学のシーズ集と位置付けています。

本報告書をお読みいただいた皆さまには様々な形での連携・支援をお願いいたしまして、2025年度地域連携活動の総括といたします。

2026年3月

金沢星稜大学 SDGs 産学地域連携センター長
新 広昭